

2014年9月12日（金）

南八ヶ岳（初日：編笠山）

レポート by 熊本（写真：石井、吉松、布目、熊本）

南八ヶ岳で、以前から泊まってみたかったのが、入口に「遠い飲み屋」の赤提灯をぶら下げた山小屋が「青年小屋」で、編笠山（2524m）と権現岳（2715m）の間の鞍部にあり、今回はその念願を実行に移した。

初日は小淵沢の観音平から入り編笠山に登り青年小屋（泊）、翌日は権現岳に登り、キレットを超えた主峰「赤岳」を仰いで、天女山へ下山し、甲斐大泉パノラマの湯で入浴休憩し帰路に着く計画をした。



7:00 新宿発のスーパーあづさ 1号に布目さん、岡部さんが自由席 5号車に並び、熊本は指定の 2号車入口へ、何とホームモニターに、二人が話をしているところが映っており、動画に撮っていると列車がホームに入ってきた。席に着きザックを下すや否や、布目さんから、「岡部さんが大変で直ぐ 2号車にきてくれ」の SOS の TEL あり飛んでいく。

岡部さんが埼京線車内に財布を落としたと駅事務所に連絡に行ったとのこと。結局、遺失物として駅舎に届けられており事なきを得て、出発間際に飛び乗ることができた。大騒動で今回の山旅が始まった。



小山さんは立川、吉松さんは八王子から乗車し目的地「小淵沢」に向かう。天気は良く上空は青空が広がり眩しいくらいだが、南アルプスや八ヶ岳は周囲を雲で囲まれ山姿は隠れている。定刻 8:54 の小淵沢に到着。各自バラバラに買っていた帰りの指定券を集め、一か所に纏めて座席が取り直せないか交渉の結果、うまく纏まって席が確保できた。帰りは安心だ。



二台のタクシーに分乗り観音平へ向かう。約 20 分で駐車場に到着（10:30：標高約 1500m）。登山身支度とストレッチ体操で準備完了。駐車場には 30 台近くの車が駐車しており、多数の入山者がいると思われた。



10:40 登山道に入るとブナ、杉、赤松等の樹林帯となり、すぐ足元には晩夏から秋の高山植物、ホタルブクロ、アキノキリンソウ等が現れる。本日出会った草木は纏めて最後に掲載した。



無風状態で、まだ緩やかな傾斜の登山道だが蒸し暑く汗が噴き出す。

暑さに弱い布目さんがマイペースで歩けるようにし先頭に配置し、サポートとして吉松さん、小山さん、岡部さん、石井さんの順で進み、熊本は動画を撮りながらシンガリを守る隊列で登り始めた。



約 50 分登ると開けた見通しの良い「雲海展望台」に到着（10:42）。
ここで最初の休憩を取る。



再び樹林帯に入り、勾配が徐々にきつくなり、汗もしたたり落ちる。
暑さに弱い布目さんが遅れ気味で、先頭の吉松さんの姿は遠く視界から消えている。



雲海展望台から約 50 分で編笠山への直登コースと青年小屋への巻道コースの別れ「押手川分岐」に到着した。予定はここで昼食。分岐点は樹林帯の中にある、青年小屋コースを 5 分程登ると展望台との表示があり、昼食はその展望台で取ることにした。



展望台に 11:42 に到着。



ここで昼食休憩（30 分）を取る。

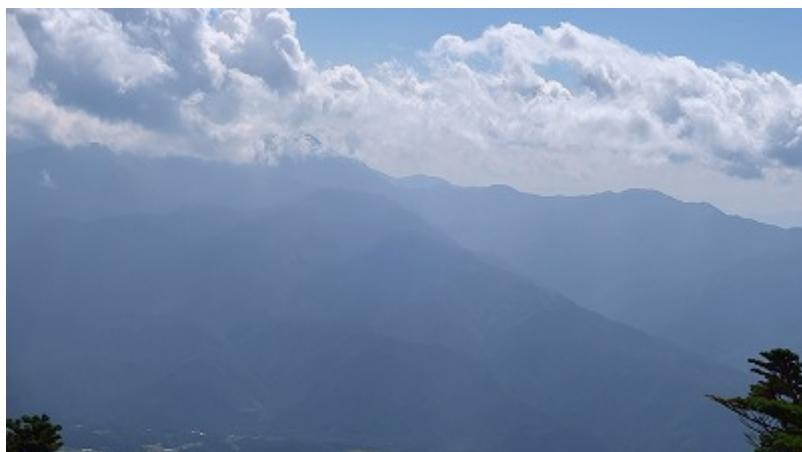


昼食後、記念の集合写真を撮る。まだこの段階では皆、元気である。



分岐点まで戻り編笠山頂（2524m）の高みを目指す。

この分岐から山頂までは直登で半端な登りではない。既に2時間以上を登り詰めており、錐を付けたように足は思い。



登山道は大きな石、岩の重なった急登になり、背の高い樹林帯から離れ、陽差しをまともに背中から受け暑く、背面には南アルプスの展望が広がった。

少し登っては振り返り、少し登っては振り返ると徐々に南アルプスの姿が大きく雲海の上にせり出してくる。



悪戦苦闘しながら登ると、前方が開け、山頂が間近いことが分かる。

もうあと少し、自ら最後の鞭を打って頑張る。



吉松さん、岡部さん、石井さんの健脚組は後続組の視界からは離れ、かなり先行して登っている。



先行組は垂直に掛けられた鉄梯子に取り付く。



森林限界を超えて展望が開ける。



山頂は目と鼻の先に近づいた。
最後の頑張りである。



山頂標識近くに小さく、先行健脚組三人組
と小山さんが見えた。



14:02 にヤット全員が編笠山頂（2524m）に到着し、主峰「赤岳」をバックに記念撮影。

目の前に八ヶ岳の全貌が広がる、左端には蓼科山、北八の北横岳、西・東天狗、硫黄岳、阿弥陀岳、主峰の赤岳、明日登る権現岳が連なっている。

南アルプスは左から鳳凰三山、白根三山、甲斐駒ヶ岳が見え、この景観は見飽きることがない。

急登の疲れも吹っ飛んだ。



南アルプスの山並み



霧ヶ峰（車山）と中央に蓼科山、と北横岳、再右端は天狗岳



左から阿弥陀岳（横岳が陰で見えない）、硫黄岳、主峰の赤岳、右の三つのピークが明日挑戦する「のろし場」、權現岳西ギボシ（2700m）、そして再右端が權現岳本峰の東ギボシ（2715m） * 權現岳は双耳峰



編笠山頂にあった一等三角点。

山頂は、立っていると強い風に晒され寒いが、座っていると風は頭上を抜け、太陽の陽差しで暖かい。



14:20 青年小屋に向かって下山開始。標高差約200m の下りだ。



中間あたりまで下った辺りに「ヒカリゴケ」の標識があり、覗いて見ると、確かに、左側の中央に光っているコケが確認できた。



編笠山と権現岳の鞍部に青年小屋の青い屋根が真下に見える。
先行組は大きな石、岩の重なりを降り切り小屋到着はもうすぐだ。



14:45 に青年小屋に到着



青年小屋の入口には名物「遠い飲み屋」の赤提灯が下がっている。

念願の「遠い飲み屋」に宿泊がやっとかなった。

我々は6人で8人部屋の個室をGET。

3連休前の金曜日で混んでいると思ったが
我々含め宿泊者は11名のみ。



荷物を部屋におさめ、談話室の炬燵（練炭？）にドッカと座り込み、早速、石井さんが持ってきた赤ワインでスタートし焼酎へと進む。

今日の行程と、山頂からの展望に話は尽きない。

17:30の夕食まで飲み続けた。



皇太子宿泊したことがあり、小屋主の竹内さんと撮った記念写真が談話室に飾ってあった。



夕食は我々テーブルの他にもう一テーブルのみ。

アジフライ、ダイコン煮、昆布煮、冷奴、レタスサラダ、豚汁、にメロンと豪華だ。(17:30)



缶ビールで乾杯！

その後、壁に日本酒メニューがあるのに気が付いたが後の祭りだった。田酒（青森）、繩文名水（宮城）等の名だたる名酒があり、「遠い飲み屋」は嘘でなかった。しかし、グググーと手が上がりかかったが、談話室でのアルコールと缶ビールが既に入っていたり、明日の行程を考えて涙を呞んで断念した。



6 時には布団を敷き、敷き布団、掛け布団とも湿っぽかったが、毛布を二枚つかってシーツも兼用にしたため暖かさは申し分なかった。

7 時前には石井さんから深い眠りに入った。部屋温度は 7 度であった。

本日の行程で出会った高山植物を下記にまとめた。



アザミ



アキノキリンソウ



ゴゼンタチバナの実



ホタルブクロ



ナナカマド？



？



？



キンバイの一種？



ヤマハハコ



コケモモ



ウメバチソウ